



no.9

その日は朝からとても疲れていました。そして苛々していました。今から思えばそんな日は療育(母子通園)をお休みしてしまえばよかったのです。日曜の夜から息子の弟たちが熱を出し、月・火と保育園をお休みしなくてはいけませんでした。当然、母子通園はお休みとなります。保護者が同伴できない子どもたちもたくさんいて、先生方が交替で子どもたちを朝の療育に連れて来てくださいます。ですから私と一緒になくても息子は朝の療育は受けられるのです。そんなことも知りながら、療育命(?)の私は療育を休むことにとっても苦しい思いをします。たった1日感覚統合をお休みしたからと言って、何が変わるの…?と思う方もいらっしゃるでしょう。私もそう思います。しかし、たった1日、2日の小さな出来事の繰り返し弱さをもつ子にとってどんなに大切かを身をもって実感しています。

熱を出した弟たちの看病に疲れていた私は朝から準備をしない息子にとっても厳しくしていました。おしぼりの準備・着替え・ジャンパーを着る…完全に一人でとはいかないまでも手を貸したりすれば出来るようになってきていました。なのに、どうして今朝は言う事を聞いてくれないの?朝から大声を張り上げ「準備しなさい!!ズボンはきなさい!!!」とっていました。何とか車に乗り込みコスモスへ到着。2日お休みしたから今日はたっぷり感覚統合をやろう!!と意気込む私…。なのに、息子は全く乗り気ではない。それどころか全く言う事を聞かない。ロールマットはイヤイヤ、服も脱がない!!怒って自分の頭をたたき、イナイナイバアボックスに逃げ込む始末。そして私に頭突きをくらわし、抵抗する。そんな息子の態度にヒートアップする私は手荒く扱い、頭を小突いてしまった。暴れる息子をロールマットまで担ぎ、これまた手荒なマッサージ。ロールマットの大事な要件の一つに母子もしくは先生方と子どものスキンシップがある。信頼できる人に優しくマッサージをされることで心も体もリラックスできるはずである。その時の私は自分の思いだけ。「やっとな療育に来れたのにどうして一緒にやってくれないの?」という念のみ。息子の気持ちなんて少しも考えてやれなかった。

そのひ、ロールマットと一緒に介助して下さった先生は新しく来た方で年齢も若い方でした。一緒にマッサージをしてくださる間中、何故だかその先生がとても寂しそうな表情をしていたのです。私は『元気ないな…』とっていました。暴れる息子のマッサージを終えるとピーっとイナイナイバアボックスに隠れる息子。いつもなら追いかけていってイナイナイバアをしたり、捕まえるふりをして驚かせて遊んだりするのですが、その日はそんな気力がありませんでしたし、一連の息子の態度に苛々していました。「もうお母さん帰る!!一緒に療育しないなら帰る。バイバイ」半分本気で玄関に向かって歩き出しました。すると、さっきの先生が「お母さん、行かないで。○○はお母さんとやるよねえ。お母さん…」言葉をまだうまく使えない息子に代わって、息子の気持ちをその先生は代弁してくれました。その時、ハッと気づきました。先生の寂しそうな表情…寂しそう…そう、息子は寂しかったんだ。毎日一緒に療育に来ているのにお休みをして一番寂しかったのは息子のはず。「お母さん、一緒に来てよ。寂しかったよ。」って言えない息子の気持ち。どうしてそんな簡単な事に気づいてあげられなかったのか…。親の体調や思いを小さな子にぶつけて思い通りにならないからと言って突き放す。またしてもダメな母親な私でした。

その日の療育遊びは「お母さ〜ん」と言って離れた場所にいるお母さんに向かって走り込み、抱きつくものでした。離れた場所に座り、「○○!!」と息子の名前を呼んだのに息子は私の所には走って来ませんでした。当たり前です。そんな自分を受け入れてくれない母親の胸に飛び込んでくる息子ではありません。暗い気持ちで家に戻った私はとても反省しました。そして私に上手に息子の気持ちを知らせてくれたその若い先生にとっても感謝しました。

翌日、また気持ちを新たに息子と療育に行きました。メゲない、懲りない私は深く反省しつつ、その先生に昨日の息子に対する無礼を詫びました。その先生は私をとがめることなく、息子をいっぱいいっぱいマッサージしながら「いいんです。お母さんが気付いてくれたから。〇〇くん、よかったね。」って言うてくれました。私は息子のことも私のこのどうしようもない気持ちも分かってくれる先生がいると思えてとても気持ちが温かくなりました。そしてそれ以後は、療育頑張るぞ！！ではなく、療育一緒に頑張ろうね♡に思いが変わりました。息子あつての療育ですものね。

園長がよく「感性」という言葉を使います。若いから、子どもがいないから、男だから保育や指導員には向かないという人もいます。しかし園長いわく、そんなことはどうでもよくて、要するに「感性」なのだそう。子どもと接する中でその「感性」が生まれてくる人もいるのだそうです。子どもに本当の愛情をもって接することができる「感性」。まだまだ私には遠い言葉です。コスモスの先生方も様々な「感性」を持っています。個性あふれる先生方と共にまた新年を迎えることができました。よりよいコスモスを作り上げるためには私たち保護者も先生方にお任せするだけではなく、常に疑問を持ち、問いかけ、交流を持っていきたいと考えています。今年もよろしく願いいたします。

書いてくれたお母さんの文章をそのまま掲載しています